

# 県立新発田病院だより

第64号 2019年3月発行

新潟県立新発田病院

〒957-8588 新発田市本町1-2-8  
TEL.0254-22-3121 FAX.0254-26-3874  
<http://www.sbthp.jp/>

## 【当院の基本理念】

1. 県北の急性期高度医療を担い、質の高い医療を提供します。
2. 患者さんに優しく安全で信頼される病院を目指します。
3. 保健福祉・医療機関と連携して地域の基幹病院としての役割を担います。
4. 教育・研修を積極的に行ない、医療の未来に貢献できる人材を育てます。

## 目次

- P 1. 巻頭言：医療制度変更と主治医制  
P 2. 病院トピックス：新発田病院での初期臨床研修を終えて  
P 3. がんの診療・ケアを安心して当院で受けていただくために・ミニクイズ  
P 4. 患者さんの声、患者さんの権利、編集後記

## 医療制度変更と主治医制

病院長 塚田 芳久



今年5月から新元号の時代が来ます。昭和生まれの私は三つの元号を生きることになり、時代の変化を感じますが、医療界には平成の終盤から大きな変化が押し寄せています。始まりは平成24年8月の8法案に始まる「社会保障と税一体改革」の社会保障制度改革です。日本は世界に冠たる国民皆保険制度により、だれでも気軽に医療の恩恵を受けられる医療アクセスの良さを享受しました。加えて、医療水準向上が加わり、世界的な長寿国となりました。その医療制度継続を目的に平成27年4月から「地域医療総合確保推進法」が作られ、団塊の世代が後期高齢者になる2025年に向け、国は医療や社会の仕組みの大変革を起こそうとしています。

一方では一億総活躍社会実現を目指し、「働き方改革関連法案」が今春から動き出します。医師への適用は2024年まで猶予があるものの、これまで時間管理が不十分だった医師に時間外労働規制が加わります。これまで主治医と患者の間は、365日24時間続く暗黙の了解が築かれ、入院患者は主治医の随時対応が可能でした。しかし、新法により時間外労働は週20時間程度に制限されます。正規の勤務時間40時間（1日8時間週5日）に加えて、時間外労働時間20時間程度を加えても、週168時間（24時間7日）の4割程度にすぎません。残る週100時間余は、入院患者対応が主治医以外になるかもしれません。

これまで何があなくても朝一番に病棟回診した先生も、異常がなければ外来前の回診は困難かもしれません。病状説明やご家族との面談は、可能な限り時間内をお願いしたいと思います。外来や処置や手術で勤務時間8時間が費やされれば、主治医がいるにもかかわらず代わりの先生に診察を依頼することもあるでしょう。救急外来に主治医を呼び出すことや専門医を呼び出すことも難しくなるかもしれません。

国は医師の過重労働軽減のため、他の医療スタッフにシフト(分担)するよう薦めています。その考え方に沿えば、主治医制は個人からチーム対応に、時間外対応は交代制や拘束制になっていく可能性が高くなります。患者さんの病状や性格など、主治医が最も把握しています。主治医制のチーム化には医師側からも反対意見が根強く聞かれます。しかし、医療界は長い間にわたり労働時間管理がされていない業種と言われており、法律として成立したからには避けられない事態と考えています。

そこで皆さんにお願いです。医師偏在指標で国内最低レベルの新潟県において、継続可能な医療体制のために、複数医師による診療参加にご理解をいただきたいと思います。主治医との結びつきが薄まる反面、医療の質担保につながるチーム医療に移行することになります。そして、医師少数県であるがゆえに、医師にも患者にも有用な診療体制を求めたいと思っています。



## 新発田病院での 初期臨床研修を振り返って

臨床研修医 河野 賢 人

私はこの2年間で何度か学生向けの研修病院説明会に、じゃんけんを勝ち抜いて当院の代表として参加させて頂きました。そこでは主に5、6年生の医学生を対象として研修病院としての魅力を説明するのですが、当院のブースに来る多くの学生から、「やっぱり新発田は忙しいですか。」「体育会系じゃないとダメですか。」「体力ないと無理ですよ。」といった質問を受けます。私自身、当院が初めての職場であり比較対象がなく、体力面に関しては「忙しい方もしれない。」という程度の曖昧な回答しかできませんでした。ただ私は毎回学生に対して、当院で研修する魅力は忙しさだけでは終わらず、成長につながる研修ができることだと伝えていました。自分が熱意を持って取り組んだ分だけ、時にはそれ以上に自分に返ってくるものがあったことを実感しています。

特に救急外来の当直では、県内最多の救急車の受入れ台数ということもあり、軽症から重症、小児からご年配の方まで診療科を問わず豊富な症例を経験させて頂きました。始めは戸惑い、慌てることも多々ありましたが、次第に自信を持って診療に臨めました。その場で得たものは今後、医師としての重要な土台となると思っています。また、病棟ではどの診療科でも、指導医の先生方には熱心にご指導頂き、時には専門的な処置や手技まで挑戦させて頂きました。そのような経験はこれから各々専門の診療科に進むにつれ必ず生きてくると思うので、一生の糧



としたいです。

当院の研修はほとんど全ての診療科をローテーションするのが特徴です。従って、院内の大半の方々と知り合い（少なくとも顔見知り）になります。どこに行っても当院のスタッフの方々は、医師としてはおろか社会人としても未熟である私たちに対して、温かく接して下さり、ご指導して頂きました。ご迷惑をおかけすることの方が多かったと思いますが、年齢や職種を問わず色々な方々と仕事を一緒にでき、学ぶことが大変多かったです。

2年間の充実した研修ができたのは、新発田病院で数多くの出会いがあったからだと思います。患者さん、先生方、スタッフの方々、そして同期との出会いに感謝し日々研鑽に努めて参ります。またいつか一人前の医師となり新発田病院に戻り、少しでも恩返しができたらと思っています。この場をお借りして、2年間支えてくださった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

# がんの治療・ケアを 安心して当院で受けて いただくために

がん看護専門看護師 丹治 由起子



がんの治療を受ける方・ご家族には、治療や副作用に関連する様々な不安や心配があると思います。今回は、がんの治療・ケアを当院で安心して受けて頂くための話を少しさせていただきます。当院で安心して前向きにがん治療に取り組んでいただくための一助になれば幸いです。

当院は新潟県北の救命救急医療と高度先進医療を担う基幹病院として急性期医療に貢献すると同時に、がん医療では下越圏域の地域がん診療連携拠点病院としての役割も担っています。

現在は国民の2人に1人が、がんに罹患する時代になりました。がん治療期間は人生と共に歩むくらいに長期化した事からも、がんは慢性疾患と言われるようにもなりました。

昨年のノーベル医学賞で注目されましたがん医療ですが、がん治療は手術・抗がん剤・放射線の3本柱の治療に加えて、4本目の柱に免疫治療が加わりました。これらの事からも、がん医療は一人ひとりの遺伝子に基づく個別化医療へと日々進歩していると言えます。

当院でもがん治療における予防医学、積極的な治療・緩和ケアなど様々な状況に応じた治療・ケアを行っております。

◇現在のがん治療のありかた

現在のがん治療のありかたは、がんになっ

たら治療をするためだけに生きるのではなく、それぞれが大切にしている生きかたを伺いながら、治療方法も選択出来る時代です。その結果、がんという病気を持ちながらも、その人らしい時間（日常）を過ごす事ができるようになりました。

◇がんチーム医療を目指します

当院には、がん看護専門看護師や、緩和ケア、皮膚排泄、手術、重症集中など多くの認定看護師が多職種と協働しながら個々のがんの特性に合ったがん医療と、必要とされる最良のがん看護ケアの提供が出来るように努力しております。また、緩和ケアチームも結成されており、医師、看護師、薬剤師、医療相談員など多くの多職種が協力してがんによる苦痛や不安などのサポートも行っております。

その中で私は、外来化学療法室に勤務しております。外来化学療法では正確に、安全・安楽に抗がん剤治療を提供する事が大前提です。加えて、患者さんの症状や変化の兆候に気づき、早期対応が出来るようにケアを行っております。今後も患者さん・ご家族が必要とする支援を微力ながらサポートして参ります。

どうぞ、気軽にお声をかけて下さい。よろしくお願い致します。



平成もあと少し！ 平成に流行した食べ物を古い年代順に並び替えてみましょう。

- ラ：生キャラメル
- チ：フルーツグラノーラ
- モ：食べるラー油
- ク：トルコ風アイス
- サ：ナタデココ



回答は4ページにあります。



## 投書箱から

### 《患者さんの声1》

薬だけは病院スタッフで与えてください。

### 《回答1》

内服に対して、不安な気持ちにさせてしまい申し訳ありません。内服薬自己管理シートに基づいて、ご本人が管理できる場合は、退院後も見据えてご本人に管理をしていただいています。

患者様の状況変化に対応し、不安のない内服管理をして参ります。

### 《患者さんの声2》

フリーWi-Fiをつけてほしい。お湯のポットを置いてほしい。

### 《回答2》

総務省や厚生労働省が構成員となっている「電波環境協議会」が平成28年4月に公表したガイドラインによると、200床以上の405の医療機関のうち35.3%の機関で、無線LAN等の電波利用機器の使用に起因するトラブルが発生しています。当院では、医療機器への影響が懸念されること等の理由により、現在のところ病棟にWi-Fiを設置しておりません。ご理解くださるようお願いいたします。

また、お湯、ポットについてはヤケド、転倒等の危険を考慮し、デイルームには給湯器やポット等の設置はしておりません。お湯が必要な時には看護師にご相談ください。

### 《患者さんの声3》

6年前の夫の入院で感じたマイナス部分が看護師の方々の対応だったと思いますが、すべての皆様の温かさに驚いています。身内のようなお声かけや、こぼれた小さな言葉を拾ってくださるやさしさに感謝の毎日です。

### 《回答3》

感謝のお言葉ありがとうございます。

今後もスタッフ一同、安心して入院していただけるように努めて参ります。

### 患者さんの権利

○患者さんならびにご家族は、患者さんの病状、医療の内容につき十分な説明を受けることができます。

そのうえで患者さんは、自らの希望する最適な治療を選択する事ができます。

○患者さんは、プライバシーを守られ、個人として尊ばれる権利があります。

国籍、人種、信条、社会的身分、経済的状态などによる差別を受ける事はありません。

○患者さんは、安全で快適な療養環境の提供を受けることができます。また患者さんならびにご家族は、自らの希望・意見を述べる事ができ、それを尊重される権利があります。

### ミニクイズ ～回答と説明～

#### 答え サ→ク→ラ→モ→チ

懐かしい食べ物はあったでしょうか？5月からは新元号がはじまり、また沢山の食べ物が流行しそうですね。流行の食べ物を楽しみつつも、食生活のバランスを崩さず、新しい時代を元気に過ごしましょう。



### 編集後記

雪が少なく気温も高めで、例年よりは過ごしやすい冬でしたが、一方でインフルエンザがたいへん流行しました。春らしい日も増えてきましたが、体調管理には十分気をつけてお過ごしください。

### 《編集委員》

清野 康夫	三井田 博	浅野 堅策
齋藤和歌子	米持 賢一	三浦 駿
椎谷 睦	須貝 直美	小山さくら
中坪 繁	源川 恒一	柳 健太